

分野:基礎病態学

主科目 副科目	人体病理学・病理診断学 Human pathology and diagnostic pathology	DM_1201	区分	選択必修	授業形態	演習 (講義・実習含む)
------------	---	---------	----	------	------	-----------------

担当	教授	准教授	講師	助教	客員教授・その他
板橋	◎宇於崎 宏 笹島 ゆう子 齋藤 光次		菊地 良直	沼倉 里枝 安井 万里子	
ちば	◎山崎 一人	富居 一範			
溝口	◎川本 雅司		高橋 美紀子	阿曾 達也	

	人体病理学・病理診断学Ⅰ（1年次）				人体病理学・病理診断学Ⅱ（2年次）				人体病理学・病理診断学Ⅲ（3年次）			
	単位	4単位	配当年次	1年・通年	単位	4単位	配当年次	2年・通年	単位	4単位	配当年次	3年・通年
概要	組織標本作製の概要、原理を理解し、簡単な作業を行えるようにする。また、標本作成を依頼し、作成された標本を評価できる。組織染色も同様に、理解を深め、自ら実施する。病理診断においては、代表的な検体について、肉眼診断、組織診断の原案を作成する。病理解剖の流れ、意義を理解する。病理学研究を行うために必要な知識・手法を以上の講義、演習、実習を通して修学する。				病理診断に頻出の主要な疾患について、診断の原案を作成できるようにする。剖検をみずから実施できるよう、技術および観察力をつける。剖検の報告書原案の作成をおこなえるようにする。免疫組織化学的染色、電子顕微鏡観察、細胞診など新たな手技の習得も行う。				病理診断に出てくる疾患の多くに対応可能なよう、幅広い知識を付けると共に、過去の症例を含めて観察し、新しい症例に対応できるようにする。関連技術については、周囲に指導ができるよう、さらに研鑽を積む。遺伝子に直結する分子病理学的な検索法についても理解し、実施できるようにする。病理診断、研究をとりまく社会的制約、法律についても理解する。			
到達目標	基礎的な組織標本作製。代表的な病理検体の診断原案作成。病理解剖の理解。				主要な疾患の病理診断原案作成。剖検の報告書原案作成。免疫組織化学的染色などより複雑な手技の習得。				幅広い疾患の診断原案作成。剖検技術の向上。分子病理学的な手技の習得。社会の中の病理学を理解する。			
事前事後学修	ロビンス基礎病理学など医学部での知識の確認。日本病理学会などが実施する症例検討会への参加。 1回の授業に対して、予習・復習それぞれ30分程度が必要である。				日本病理学会などが実施する症例検討会への参加。 1回の授業に対して、予習・復習それぞれ30分程度が必要である。				日本病理学会などが実施する症例検討会への参加。 1回の授業に対して、予習・復習それぞれ30分程度が必要である。			
評価方法	受講態度(発表、課題提出) 20% 病理診断レポート 80%				受講態度(発表、課題提出) 20% 病理診断レポート 80%				受講態度(発表、課題提出) 20% 病理診断レポート 80%			

■主な演習(講義・実習含む)

	人体病理学・病理診断学Ⅰ (1年次)	人体病理学・病理診断学Ⅱ (2年次)	人体病理学・病理診断学Ⅲ (3年次)
板橋	火 曜日 8 : 30 ~ 10 : 30 別途連絡	火 曜日 8 : 30 ~ 10 : 30 別途連絡	火 曜日 8 : 30 ~ 10 : 30 別途連絡
	水 曜日 13 : 00 ~ 17 : 00 手術検体マクロ観察実習	水 曜日 13 : 00 ~ 17 : 00 手術検体マクロ観察実習	水 曜日 13 : 00 ~ 17 : 00 手術検体マクロ観察実習
	月 曜日 10 : 00 ~ 12 : 00 検鏡	月 曜日 10 : 00 ~ 12 : 00 検鏡	月 曜日 10 : 00 ~ 12 : 00 検鏡
	曜日 : ~ :	曜日 : ~ :	曜日 : ~ :
	曜日 : ~ :	曜日 : ~ :	曜日 : ~ :
-	曜日 : ~ :	曜日 : ~ :	曜日 : ~ :
	曜日 : ~ :	曜日 : ~ :	曜日 : ~ :
	曜日 : ~ :	曜日 : ~ :	曜日 : ~ :

教科書・参考書

外科病理学第4版(文光堂)、Rosai and Ackerman's Surgical Pathology 11e (Mosby)、組織病理アトラス第6版(文光堂)

その他履修上の注意事項

病理診断科に関連する臨床病理カンファレンスに出席し、可能な例については担当医の指導のもとに自ら準備、発表する。関連する学会として、日本病理学会、日本臨床細胞学会への入会が望ましい。またそれらによって開かれる学術集会、支部会への参加を奨励する。
講義・実習・演習の詳細については個別に案内する。
試験やレポート等に対し、講義の中での解説等のフィードバックを行う。
この科目と学位授与方針との関連をカリキュラムマップを参照し理解すること。

関連科目	副科目	分子生体機能学、微生物学系、細胞組織学、法医学などの他、内科系および外科系の臓器別関連領域
	共通科目	病理診断学・法医学特論、各臓器別領域の特論

関連する専門医資格

日本病理学会認定病理専門医、日本臨床細胞学会細胞診指導医

キャリアパス(モデルコース)

